

1 あなたの学校や家での学習のことで教えてください。

■分析と今後の指導上の工夫

・「勉強が好きですか」の設問に対して、本校の肯定割合は53.8%であり、市の肯定割合を10ポイント近く下回る結果となった。学習内容への興味・関心を高めるとともに、スモールステップで「分かる」実感を積み重ねられるよう、学習活動の工夫が必要である。

・「次の教科などの学習は、好きですか」の設問に対して、主要教科を中心に多くの教科で本校の肯定割合が市の肯定割合を下回っている。特に算数において乖離が見られることから、児童の苦手意識を払拭する教材提示やICT活用が求められる。

・「授業の始まりには席に着いている」の設問に対して、本校の肯定割合は100%であり、市の肯定割合を大きく上回る極めて良好な結果であった。時間を守り、学習に臨む態度は本校の大きな強みであり、この規律を基盤として授業内容の充実に繋げていく。

・「グループなどでの話し合いに自分で進んで参加している」の設問に対して、本校の肯定割合は市と比較して低い傾向にある。自分の考えを表現することへの不安を解消するため、思考ツールの活用や、安心して発言できる学級経営を一層推進していく必要がある。

・「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している」や「テストで間違えた問題をもう一度解き直している」などの設問に対して、本校の肯定割合は市を下回っている。家庭学習の時間は確保されているものの、定着のための具体的な方法が習慣化していないことが、学習意欲の低下を招く一因となっている。

2 あなたの毎日の生活について

■分析と今後の指導上の工夫

・「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に対して、本校の肯定割合は64.1%であり、市の肯定割合を下回る結果となった。日々の教育活動全体を通じて児童の長所を積極的に認め、自信をもって学校生活を送れるよう自己肯定感を高める支援を推進していく。

・「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対して、本校の肯定割合は66.7%であり、市の肯定割合を下回っている。日々の学習が自分の将来や社会とどのように繋がっているのかを実感できる機会を増やし、目的意識をもって生活できるよう働き掛けていく。

・「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に対して、本校の肯定割合は15.4%であり、市の肯定割合を大きく下回る結果となった。家庭学習の時間はある程度確保されているものの、自律的に取り組む姿勢に課題があるため、計画の立て方や自主学習の進め方について具体的に指導していく。

・「家の人と学校での出来事について話をしていますか」の設問に対して、本校の肯定割合は76.9%であり、市の肯定割合を上回っている。家族との良好な関係は児童の情緒の安定に繋がっているため、今後も学校での様子を積極的に発信し、家庭との連携を深めていく。

・「地域の行事に参加していますか」の設問に対して、本校の肯定割合は17.9%であり、市の肯定割合を下回っている。地域の一員としての自覚をもち、多様な世代と交流することで社会性を育めるよう、地域の行事や活動に関する情報を積極的に共有していく。

3 スマートフォンやけいたい電話について

■分析と今後の指導上の工夫

・「見てはいけないサイトに繋がらないように、フィルタリングをしたり、キッズケータイを使ったりしている」の設問に対して、本校の肯定割合は100%であり、市の肯定割合を25ポイント以上大きく上回っている。端末を所持している全ての児童に対して適切な利用制限が施されており、家庭における安全管理が徹底されている。

・「土曜日や日曜日など、学校が休みの日について、1日にどれくらいスマートフォンや携帯電話を使用していますか」の設問に対して、本校では「3時間以上」利用する児童が0%であった。市の割合が27.3%であることを踏まえると、休日の長時間利用を控えている傾向が顕著である。

・「家の人はあなたがスマートフォンや携帯電話をどのように使っているかチェックしていますか」の設問に対して、本校では「チェックされていない」と回答した児童が0%であった。市の25.9%の児童がチェックを受けていない状況と比較して、本校の保護者の関与は非常に高いと言える。

・「LINEなどのSNSでうまく思いが伝わらず、嫌な思いをしたり、相手に嫌な思いをさせてしまったりしたことはありますか」の設問に対して、本校では「嫌な思いをしたことも、相手に嫌な思いをさせたこともある」が66.7%に達し、市の肯定割合を60ポイント以上も上回っている。フィルタリング等の機能制限は万全であるが、文字によるコミュニケーションの難しさから生じるトラブルの経験率が非常に高いことが課題として浮き彫りになった。

・家庭でのルール作りや安全管理が徹底されている強みを活かしつつ、SNS上での言葉の受け取り方の違いや相手への配慮といった、実践的なコミュニケーション能力の育成に向けた指導を重点的に行っていく。

4 あなたの体力や健康、食事、安全について

■分析と今後の指導上の工夫

・「運動をすることは大切だと思う」の設問に対して、本校の肯定割合は100%であり、市の肯定割合を上回る結果となった。全ての児童が運動の重要性を認識しており、健康な体づくりに対する意識が非常に高い。

・「休み時間や放課後、休日などに、自分から進んで運動をするようにしている」の設問に対して、本校の肯定割合は84.6%であり、市の肯定割合を10ポイント以上上回っている。運動を大切だと思う意識が、実際の行動にもよく結び付いている。

・「毎日、朝食を食べていますか」の設問に対して、本校の肯定割合は92.3%であり、市の肯定割合を上回る良好な結果であった。家庭の協力の下、生活リズムの基本である朝食の摂取が習慣化されている。

・「食事のマナー(お箸の使い方、姿勢など)を守って食べることは大切だと思う」の設問に対して、本校の肯定割合は100%であった。また、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」を言っている割合も高く、食に対する感謝や礼儀を重んじる姿勢が定着している。

・「健康のため、タバコは吸うべきではないと思う」や「お酒、覚醒剤などの薬物は使ってはいけないと思う」の設問に対して、本校の肯定割合はいずれも100%であった。自身の健康を守るための規範意識が、市の肯定割合と比較しても非常に高く維持されている。

・「交通事故に遭わないよう、交通ルールを守っている」の設問に対して、本校の肯定割合は100%であった。登下校を含め、日頃から安全意識をもって行動できていることが伺えるため、今後もこの意識を継続できるよう指導していく。